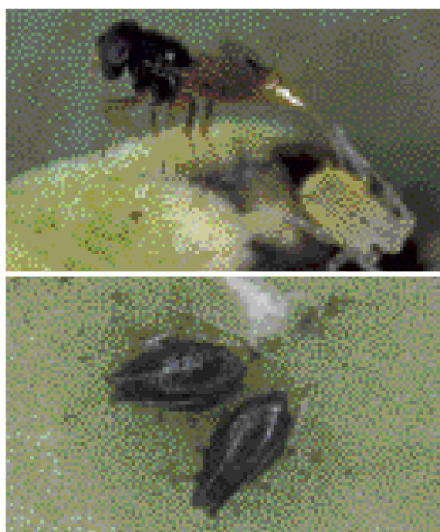




農業技術センターニュース

目次				
	土着天敵寄生蜂チャバラアブラコバチによるジャガイモヒゲナガアブラムシの防除	… 1	 ヒペリカムは何故咲くの？ (開花に及ぼす日長と温度)	… 4
	水稻品種の移植時の耐冷性	… 2	 赤ピーマンの若どり栽培技術	… 5
	ハウスメロンにおけるエルゴール乳剤の散布濃度	… 3	 県内で確認した茶害虫クワシロカイガラムシの捕食性天敵	… 6

土着天敵寄生蜂チャバラアブラコバチによる ジャガイモヒゲナガアブラムシの防除



チャバラアブラコバチの成虫
(上) と蛹 (マミー)(下)

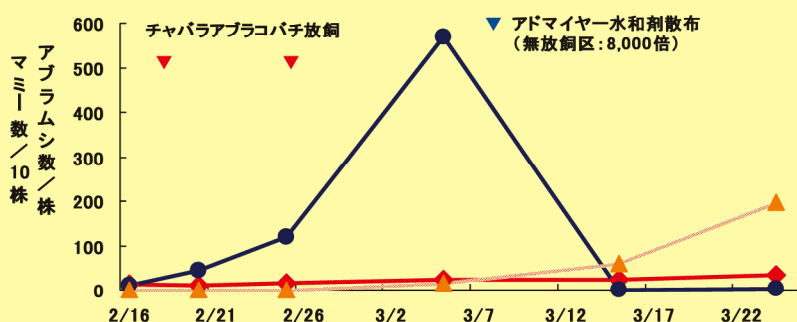


図 両試験区におけるジャガイモヒゲナガアブラムシ個体数およびマミー数の推移

注) 無放飼区におけるジャガイモヒゲナガアブラムシの密度が高くなったため、3月9日に殺虫剤を散布した。

施設栽培ナスやピーマンで天敵類を利用した害虫防除を行う場合、アブラムシ類の防除には主にコレマンアブラバチ（以下、コレマン）が利用されています。しかし、コレマンで防除できないジャガイモヒゲナガアブラムシ（以下、ジャガヒゲ）の発生とその被害が問題となっています。そこで、ジャガヒゲに効果があると考えられる土着天敵寄生蜂チャバラアブラコバチ（写真、以下、チャバラ）の防除効果を調査しました。

促成ピーマンにおいて、ジャガヒゲの低密度時に、チャバラを株当たり5頭、1週間間隔で2回放飼しました。その結果、無放飼区ではジャガヒゲの密度が急増したのに対し、放飼区では低密度に抑えることができ、チャバラの有効性が確認されました(図)。

現在、徳島県と住化テクノサービス(株)と共同で、適正な放飼頭数や回数の検討など、実用化に向けた試験に取り組んでいます。

(昆虫担当 下八川裕司 088-863-4915)